

海外研修



海外研修日程 — ブラジル —

日時	プログラム	滞在先
8/1 (金)	関西国際空港発 フランクフルト着・フランクフルト発	機内泊
8/2 (土)	サンパウロ着 海外研修ブリーフィング	サンパウロ
	サンパウロ市内視察 (リベルタージ (東洋人街)・メルカード・ムニシパウ (市営市場)) 振り返り	
8/3 (日)	安全管理ブリーフィング サッカー・ミュージアム 見学	サンパウロ
	Confunto Esportivo Cultural Brasil Japao (市民球場) 視察 チエテ川流域環境改善事業 (円借款) 視察	
	振り返り	
8/4 (月)	公立初等学校ドウトール・センタロ・タカオカ校 訪問 サンパウロ州沿岸部衛生改善事業 (円借款) 視察	サンパウロ
	振り返り JICAサンパウロ出張所員等との意見交流会	
8/5 (火)	ブラジリア学園 (JICAボランティア配属校) 訪問 地域警察・交番 訪問	サンパウロ
	ブラジル日本移民資料館 見学 振り返り	
	PIPA (日伯援護協会) 訪問	
8/6 (水)	サンパウロ発 ベレン着	ベレン
8/7 (木)	越智学園 (JICAボランティア配属校) 訪問・交流 INPE (ブラジル国立宇宙研究所) 訪問	ベレン
	振り返り	
8/8 (金)	ベレン現地マーケット視察 (教材収集) ベレン→トメアス移動	トメアス
	ACTA (トメアス文化農業振興協会) 訪問 CAMTA (トメアス総合農業協同組合) 訪問	
	CAMTA熱帯果実加工工場 見学	
8/9 (土)	小長野農場 (アグロフォレストリー農場) 視察 ホームステイ	トメアス
	トメアス→ベレン移動	
8/10 (日)	ベレン発 ブラジリア着	ブラジリア
	ブラジリア市内視察 振り返り	
	ゴイアニア市へ移動	
8/11 (月)	ペスタロッツ協会 訪問 ブラジリアへ移動	ブラジリア
	JICAブラジル事務所訪問・報告会 JICAブラジル事務所員との意見交換会	
	ブラジリア発	
8/12 (火)	サンパウロ着・発	機内泊
8/13 (水)	フランクフルト着・発	機内泊
8/14 (木)	関西国際空港着	



訪問先所感



海外研修ブリーフィング

これから始まる研修への期待と、本当に始まるという思いがこみあげた。ワールドカップ後、オリンピック前のブラジルはどんな国か、限られた時間でしっかりと見て、感じていきたい。【橋本】

▶サンパウロ市内視察 (リベルタージ(東洋人街)・メルカード・ムニシパウ(市営市場))

「大阪橋」「弁当」「らーめん」…たくさんの「日本」を発見。子どもたちの驚く表情が目につく。町にはたくさんの落書きがあった。夜の振り返りで、今日見た落書きの中には「質の高い教育をみんなに」「飢餓や貧困をなくして」というようなメッセージが書かれていたものもあったということがわかった。明日から、落書きを見る目も変わりそう。【川本】

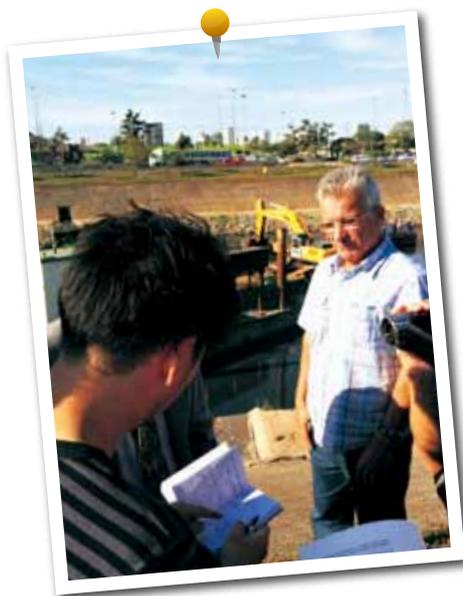


安全管理ブリーフィング

JICA ブラジルの遠藤次長のお話、とりわけ治安についての話でみんなの不安がさらに強まり、会議室が静まりかえったのが印象的だった。とにかくそういう状況になったら観念するしかないのだということが分かった。諦めが肝心【中田】

▶サッカー・ミュージアム 見学

街の様子からは想像できないような近代的な内装と施設。この国でサッカーに関する施設にこれだけのお金をかけるのはさすがサッカー大国。だけど、ターゲットとしている客層が気になった。ほとんどポルトガル語表記のみ。だとしたら観光客向けというより現地の人向け？だとしたら貧困層でサッカーボールを裸足で追い回しているような子どもたちは、こんな立派な施設へは来れないかもしれないと思った。W杯開催前後の暴動を思い出した。【上田】



◀チエテ川流域環境改善事業(円借款) 視察

チエテ川の汚さと臭さには非常にショックを受けた。日本のODAによってサンパウロ市の洪水が起こらなくなったのは大きな成果だと思ったが、同時にむしろブラジルにおける環境教育がどのように行われているのかという疑問が強くなった。【中田】

8 / 4
Mon.

▶公立初等学校ドウトール・センタロ・タカオカ校 訪問

女性の管理職が 80%という背景には女性の社会進出が教育分野しかなかったお話が印象に残りました。思わぬ歓待を受けましたが、ここで食べたバナナのフルーツサラダがとってもおいしかったです。【比嘉】



◀サンパウロ州沿岸部衛生改善事業(円借款) 視察

人口の急激な増加により、下水問題は深刻になってきていて、既存の地下管を利用して下水環境を整えている。しかし、工業廃水や川にゴミを投棄するなど新たな問題が起きてきている。チエテ改善事業と同様に、環境整備の必要性を改めて感じた。【橋本】

8 / 5
Tue.

▶ブラジリア学園 (JICAボランティア配属校) 訪問

理想の教育を求めて、自宅のガレージから始めた学園を大切に思う校長先生の思いがひしひしと伝わってきた。また、前日の懇親会でお話した、日系社会青年ボランティアの派遣で来ておられた日本の先生の活躍ぶりにも感心した。【梶本】



◀地域警察・交番 訪問

一つの区間でみんなで監視し合うリーダー制。警察官がまず市民の人と関わりをもつ、担当通り制にすることで、地域とより密着しているのを感じた。警察官が指導者としてサッカー教室を開いたり、治安を守るだけでなくスポーツ面でも貢献している姿がよいと思った。【廣田】

▶ブラジル日本移民資料館 見学

移民1世とは言っても、大人・親という立場で来た1世と子どもという立場で来た1世とは、日本やブラジル政府に対する気持ちが大いに異なる。第二次世界大戦前後の葛藤や日本人がブラジルという地に築き上げてきていることの多さに驚いた。(ブラジル) 移民について知ることは「日本を知る」格好の材料になると実感した。【丸谷】





▶PIPA(日伯援護協会) 訪問

ブラジルで「自閉症」というものが認知されたのは 2008 年のことと聞き、衝撃を受けた。それまでは薬だけを飲ませたり、隠されたりしていたとのこと。1 人 1 人が大切にされている PIPA の子どもたちの表情は、とてもいきいきとしていた。さえぐさ先生の「本当にいいものは、どこでも通じる」という言葉が心に響いた。【川本】



◀越智学園(JICAボランティア配属校) 訪問・交流



今までの研修は受動的なものが多かったのですが、今回は私たちから日本文化を紹介する能動的な研修ということで、とても緊張しました。ある意味一つの山場でした。しかし、その緊張感とは裏腹に子どもたちは大盛り上がり!! 初めは人見知りで、恥ずかしそうにしていた子どもたちも最後にはほとんどの子が笑顔を見せ、明るく元気な姿を見せてくれました。子どもの姿は地球の反対側でもまったく同じで、私たちにも元気をくれる明るい未来への希望なのだと思えて実感しました。歌のプレゼント(日本語)も感動!! 【山根】

▶INPE(ブラジル国立宇宙研究所) 訪問

地球規模で必要とされている仕事のひとつだと感じた。衛星を使って監視をしなければならないほどの違法伐採。それほど広大な土地なのだという驚きと共に、違法なことだと分かっても伐採して売らないと生活が苦しいのだという違法伐採者の生活が原因であるこの国の課題の大きさも感じた。【上田】



◀ベレン現地マーケット視察(教材収集)

複数の警察官の警備(護衛)という案内のもと買い物。市民に対して開かれた市場。サンパウロの市場同様、珍しくて日本にあまりないものはここで買うべき。特にピラニア・ピラルク・コーヒー・アサイー・楽器関連。野菜と鮮魚が印象的。【丸谷】

▶ACTA(トメアス文化農業振興協会) 訪問

文化農業振興協会の乙幡さんの話からは肚を括った人間の強さを感じました。このトメアスを開拓してきた苦労は並大抵のことではなかったと思います。まっすぐに伸びる赤土の道路を見て思いました。ホントにすごい。【比嘉】



8 / 9
Sat.

▶CAMTA熱帯果実加工工場 見学

熱帯果実を経済作物としてトメアス地域の重要な拠点として活動している加工工場。多くの社員が一心に働いている姿は圧巻でした。日本で売られているアサイージュースの生産過程を初めて知りました。思えば海外で作られて日本に入ってくる輸入品の数は多い。日本は小さい島国だが、たくさんの人に支えられて、助け合って、生活していることを実感しました。しかし、日本はナタデココのように一時的な流行で終わってしまう可能性があります。そのときにこの人達の仕事はどうなるのだろう。生産者と消費者の関係。【山根】



◀小長野農場(アグロフォレストリー農場) 視察

説明を聞きながら、試行錯誤して、何度も失敗しながら今のアグロフォレストリーを築きあげた不屈の魂を感じた。事前学習でアグロフォレストリーで生態系が変わるデメリットを聞いていたが、原生林も残しながら行うことで生態系も保てることを教えてもらった。ブラジルに根を下ろしながら、日本のことを気にかけて、いい商品をつくり、輸出することが貢献だと言っていたので、感動した。【大西】



▶ホームステイ

大農園経営をしている家庭にホームステイした。交流してから夕食までのわずかな時間の間に 1929 年に入植した港や川遊びの場所など様々な場所に行った。また、ホストファミリーの方から沢山の話を聞いて楽しくいろいろなことを学べた。【大西】

▶ペスタロッツ協会 訪問

ブラジルから3時間。迷ったのかと思ったら突然現れた小さな施設で、農業と芸能を生かした療法を中心にされていた。一人ひとりのできることを見つけて支援していこうという明るい雰囲気を感じられた。【梶本】



8 / 11
Mon.



◀JICAブラジル事務所訪問・報告会

一人一人のふりかえりを聞くことでより一層考えが深まった。みんなの熱い思いを聞く、このふりかえりの時間が大好きになった。この研修を通してふりかえりの大切さを実感！！【廣田】



8 / 12
Tue.

▶ブラジルア見学

ホテルの屋上から世界遺産ブラジリアの整然とした近代的な街並みを見て、そのきれいさに驚くと同時に無機質な印象も受けた。【中田】



同行者より

海外研修に同行して

独立行政法人国際協力機構
関西国際センター（JICA 関西）
国際協力推進員 滋賀県担当 郡司 穰

この報告書には、関西 2 府 4 県から 10 名の先生が 2014 年の夏休みの間に研修でブラジルへ行った時のこと、帰国してから 2 学期の間にそれぞれの教室でどのような授業を行ったかということが書かれています。

簡単にインターネットで航空券が買える今日、海外旅行に出かけることはそれほど珍しいことではありません。今回の教師海外研修で同行したブラジルにも、日本から多くの人が 2014 年のワールドカップで訪れ、また 2016 年にはリオデジャネイロでオリンピックが開かれるので訪れることでしょう。ただ、普通の海外旅行と教師海外研修の違いは、まずは現地で訪れる場所もほとんどがガイドブックには載っていないようなところ。サンパウロのようによく知られた街にも滞在しましたが、トマスという日系移民の人々がアマゾンの熱帯雨林を切り開いて作った街も訪れました。訪問先も河川工事や下水道整備の現場、現地の公立学校や日系コミュニティが建てた病院、交番、フルーツの加工工場など様々な開発課題に向き合う場所でした。もちろん現地の人が住む家や、買い物をする市場、食べる食堂などと生活と文化に触れる場所もあり、非常に多岐に渡りました。2 週間というあっという間の時間でしたが、どんな旅行よりも濃密に、「人種のサラダボウル」ともいわれるブラジルとその文化を理解する機会になったのではないかと思います。

訪問先以上に参加した先生の目的意識にも大きな違いがあります。参加した先生の動機や関心も、自分の親戚にもいる日系移民の歴史や自分の受け持つクラスの外国人児童、あるいはブラジルが新興国として抱える開発課題などと十人十色でした。教師海外研修のポイントは、いつもどおり教科書から教えるのではなく、夏休みにわざわざ地球の反対側へ行き、自分の目で見て聞いて、肌で感じたこと、味わったこと、向こうに住む人や一緒にいた他の学校の先生たちと考えたこと、話したことを、自分の教室に持って帰ってきて、写真やモノ、時にはクイズやダンスを通じて経験を共有するわけです。当然、教科書には載っていないことがほとんどですから、一から授業を組み立てて、それをうまく教科の中に滑りこませる工夫が必要なわけですが、帰国してから実践授業を見てどの授業でも「なるほど」と思うことの連続でした。ある子どもはとてわかりやすくこの研修の効果を「ぶらじるにいきたい！」と表現していました。

日本とブラジルの間の長時間のフライトに加え、現地でも縦に横にと車や飛行機で移動し、車内や深夜のホテルでの打ち合わせなどハードスケジュールでした。時にはフルーツで身を削り、時には暗い街角でひやりとした人もいましたが、それでもなお全員でわいわいとシュラスコに舌鼓をうち、アイデアや意見を交換し充実した研修となりました。教師海外研修は、JICA が行っている開発教育の取り組みの中で、特に魅力的なものの一つです。それが参加される先生とその授業を受ける生徒たち、先生の所属される学校の先生方のご理解、現地での訪問を受け入れてくださる人々、国内研修に関わってくださる講師の方々、また、スケジュールなどの調整をもらっているブラジル事務所のような JICA 在外事務所のスタッフと、多くの人のご支援とご配慮により続けられていることに感謝いたします。

